



“源溪山だより”

<https://chouanji.p-kit.com/> 令和8年9月②
住職 恩田仁志 gen-chouanji@aka2.gmobbb.jp



◆秋のお彼岸を迎えました

令和八年

秋彼岸会 香語

春種まき、苗植えるとき、

風雨順調にして、豊かなる実りを神仏に祈る

秋 自他共々の労苦をねぎらいつつ、

天地の恵みを享受し、仏祖広大の功德力に感謝す

春秋の彼岸、これ祈りの時、自身の力の小なるを觀じ

天地神明、佛祖先人の大なる慈恵に報す

今日、秋彼岸において、参集せる信心の施主等

至心に焼香礼拝して、受けたる洪恩に奉答せん

各々が念ずるところの諸精霊、有縁無縁の三界万靈

まさにこの供養を受け、法味に充足せんこと

この夏、酷暑を耐え忍び、

過ぎては雨多く、雲の切れ間わずかに

日月有り難し、季節は巡り行く

秋は涼風とともに来たり、

夏は何処へか去りぬ

本年の秋彼岸法要でお唱えした香語

秋分の日を中日とした前後3日間、計7日間が秋のお彼岸です。命の尊さや自然の恵みに感謝しながら、ご先祖様、また三界萬靈を供養し、ご加護を願う古くから暮らしに溶け込んでいる行事です。

日常生活に追われ大切なことを見失ってしまいがちな昨今。お彼岸は、今日ある自分を育てくれたご先祖や様々な縁に思いを寄せるとともに、自分自身の命の在り方を見つめ直す大切な期間であると思います。

彼岸の入りにあたり、多くの皆様がお墓に香や花を供え、手をあわせにおいでになりました。

「暑さ寒さも彼岸まで」とは、古くからの慣用句ですが、本年は月初めからの雨または曇天傾向でしたので、季節の変わり目とは些か言えなかったのではないのでしょうか。9月1日以降、気象庁の記録によると彼岸の入りまでの間、丸一日が一言で「晴

れ」と記録された日はゼロでした。

今後の予報によれば、中秋の名月とされる25日も、満月となる27日も、明るく輝く月は見えないのではないかと思います。

仏教では月は智慧や真理、慈悲を象徴する比喻としてよく用いられます。仏の姿あるいは仏性とも言われます。そのような月を觀ることが出来ないのは残念なことです。

ところが、古くから日本人は、たとえ雲に隠れてお月見ができなくても、それを

「無月」と言い、また、雨が降って月の光に照らされなくても「雨月」と言ってその存在を楽しむ知恵があります。例え姿は直接見えなくても、名月に思いを寄せるゆとりをもちたいものです。

